

# 津幡の空から

石川県学校生活協同組合

## 2021・5月号

石川県学校生活協創立72年目（信頼・安心・安全・適正・平等・共働・貢献）

2020年度経常損失金額 599万円

あと一步で黒字にならず！

石川県学校生活協同組合理事長 細野祐治

2020年度の経営総括案が、第4回理事会で承認されました。この総括案は6月の総代会で審議されます。その総括の概要をお知らせします。



2020年度の経常損失金額（本当は経常剰余金額と書きたいのですが、残念！）は、599万円です。私が理事長の就任した2016年度は-976万円、2017年度は-1,763万円、2018年度は-649万円、2019年度は-1,294万円でしたから、一番黒字に近づいた年度となります。しかし、赤字は赤字です。

2020年度のコロナ禍は、学校生協の事業・運動に大きな影響を及ぼしました。それでも外出自粛がプラスとして働き、共同購入事業やフレッシュ事業などの自主供給（売上）では予算額並びに前年度実績額共に上回りました。しかし、やはり、外出自粛で指定店供給（ガソリン・葬祭）が大幅に計画を割り込みました。大きな変化は、諸会議の多くがオンライン形式となったために、会議費用が予算額の50%以下となった事です。

石川県学校生協が掲げる黒字化5年計画の2年目で、赤字幅を減らすことができ、黒字経営に近づきました。しかし、2021年度も相変わらずコロナ禍が続く様相です。ここは踏ん張ってみなさんの暮らしと生活を守るために頑張りますので、ご活用をよろしくお願ひします。

### 2021年度 4月単月の経常剰余は予算を215万円上回りました。

石川県学校生協の4月は、経常剰余273万円の赤字となりました。予算差+215万円、前年差-100万円でした。注視する供給部門は、通信共同購入 292万円 予算比127%（予算差+62万円）、フレッシュ共同購入1,195万円 予算比99%（予算差-4万円）、指定店一般は576万円 予算比384%（予算差+426万円）、代行指定店の葬祭事業他は649万円 予算比54%（予算差-550万円）となりました。総供給高は4,380万円（予算比107%）（前年比92%）で好スタートを切ることができました。

石川県学校生活協同組合は、県内の教職員を対象とした職域生協です。学校という職場の中で教職員の生活を共同で守り向上させることを目的に結集した福利厚生組織であり、石川県の教職員の自主福祉活動や消費者運動の拠点になっています。

### 『プラトン』

紹介しています。偉大な師ソクラテスの薫陶を受けて、プラトンは、相対主義に陥ったり、詭弁に走ったりすることなく、必ず物事の真理を見極めようと決心して、真摯な思索を繰り返します。アテナイに『アカデミア』と言う学校を開いて、図書館を設置し、生徒たちを教え始めました。現在様々な場所で開催されている『アカデミア』と言う名称がつく学校の始まりが、ここにあります。プラトンは、真理は人や動物・物体などの外にあると考え、それをイデアと名付けました。その説明として『洞窟の比喩』と言う話があります。この話の内容は次のようなものです。「人間は、暗闇に覆われた洞窟の中で、鎖に繋がれて身動きできない囚人のようなものだ。背後では火が燃え盛り、揺らめく炎に照らされながら、様々な模型が動いている。人間の前にある壁には、模型の影がくっきりと映し出されている。洞窟に籠もっている人間は、外界の様子を知ることなく、目の前に蠢いている影絵を真実の姿だと思い込んでいる。明るい陽射しが広がる外には、真実の姿イデアが辺りを覆っているのに、人間はイデアの姿に気付かない。気付こうともしない。プラトンは、真実であるイデアに気付かない人間の悲しさ・愚かさを、この『洞窟の比喩』を用いて、描いて見せたのです。そして、未熟な人間を外へと誘い出し、イデアに目覚めさせようとするのが、哲学者です。プラトンは、偉大な師ソクラテスの言動について、様々な著書の中で、

### 北本 豊春

偉大な師ソクラテスの薫陶を受けて、プラトンは、相対主義に陥ったり、詭弁に走ったりすることなく、必ず物事の真理を見極めようと決心して、真摯な思索を繰り返します。アテナイに『アカデミア』と言う学校を開いて、図書館を設置し、生徒たちを教え始めました。現在様々な場所で開催されている『アカデミア』と言う名称がつく学校の始まりが、ここにあります。プラトンは、真理は人や動物・物体などの外にあると考え、それをイデアと名付けました。その説明として『洞窟の比喩』と言う話があります。この話の内容は次のようなものです。「人間は、暗闇に覆われた洞窟の中で、鎖に繋がれて身動きできない囚人のようなものだ。背後では火が燃え盛り、揺らめく炎に照らされながら、様々な模型が動いている。人間の前にある壁には、模型の影がくっきりと映し出されている。洞窟に籠もっている人間は、外界の様子を知ることなく、目の前に蠢いている影絵を真実の姿だと思い込んでいる。明るい陽射しが広がる外には、真実の姿イデアが辺りを覆っているのに、人間はイデアの姿に気付かない。気付こうともしない。プラトンは、真実であるイデアに気付かない人間の悲しさ・愚かさを、この『洞窟の比喩』を用いて、描いて見せたのです。そして、未熟な人間を外へと誘い出し、イデアに目覚めさせようとするのが、哲学者です。プラトンは、偉大な師ソクラテスの言動について、様々な著書の中で、

### 編集後記

歯を磨くように、毎日でも検査ができる体制を求めます！  
これはドイツ南西部チュービンゲンの話。ドイツでも新型コロナウイルスの感染拡大が続き、程度を変えつつ半年も都市閉鎖が続いています。しかし、チュービンゲンでは市民が週一回、無料で抗原検査を受けられています。ネットで予約し、会社等の出勤前に検査会場に入り、20秒ほどで検査は終了し、約20分後、職場に着く前にメールで結果が届くそうです。そして、この町では、検査で陰性なら劇場や屋外の飲食店が利用できています。  
このような記事を読むたびに、なぜ日本で出来ないのかとイライラしています。「歯を磨くように、毎日でも検査を」実施し、頻繁な検査で早く陽性者を見つけられれば、自由な活動が再開できるのではないかと考えます。（怒る道祐）